EBC Financial Group：米国の消費者物価指数は7月に2.7%上昇、関税圧力の高まりで予想を下回る

*EBC Financial Group*は、予想よりも弱い物価圧力が政治的・経済的な逆風にもかかわらず利下げ期待を維持していると指摘します。

DC, UNITED STATES, August 21, 2025 /EINPresswire.com/ --

米国労働統計局（BLS）によると、7月の米国消費者物価指数は前年同月比2.7%上昇し、エコノミスト予想の2.8%をわずかに下回りました。月次ベースでは、消費者物価指数（CPI）は予想通り0.2%上昇し、食品とエネルギーを除いたコアCPIは前年比3.1%上昇し、2月以来の高水準、月次ベースでは1月以来の大幅な上昇となりました。

EBC Financial Group：米国のインフレ率が7月に2.7%と予想を下回る中、EBCは関税圧力と利下げ期待が市場心理と国境を越えた資本の流れにどのような影響を与えているかを強調しています。

これらの数字は、インフレ率が緩やかに上昇しているものの、連邦準備制度理事会（FRB）が9月に利下げを検討するほど抑制されていることを示唆しています。市場参加者は好意的に反応し、米国株は上昇し、トレーダーはほぼ確実な政策転換を織り込んでいます。EBC Financial Groupは、こうしたインフレ動向と関税の影響の変化が、市場センチメントと国境を越えた資本フローに影響を与え続けると指摘しています。同社はこれらの分野を積極的に追跡し、機関投資家と個人投資家にタイムリーな市場見通しを提供しています。

主要価格帯で関税が表面化

ドナルド・トランプ大統領が全輸入品に課した10%の普遍関税に加え、鉄鋼やアルミニウムなどの業界を対象とした関税も、消費者物価に影響を与え始めています。家具・家電製品は6月の1%上昇に続き、7月には0.7%上昇し、中古車・トラックは0.5%上昇しました。

しかし、新車や缶詰の果物・野菜など、関税の影響を受けやすい一部の品目は価格変動がなく、価格転嫁効果は依然として不均一であることが示唆されています。エネルギー価格は同月1.1%下落し、インフレ全体を緩和した一方、食料品価格は横ばいでした。関税が一時的な価格高騰を引き起こすのか、それとも上昇基調を維持するのかについては、エコノミストの間でも意見が分かれています。

労働市場の弱さがFRBのジレンマを深める

7月のインフレ報告は、米国の雇用市場の緊張を示す兆候と相まって発表されました。今月初め、政府は5月と6月の雇用者数増加数を29万1000人からわずか3

□3000□□□

michelle.siow@ebc.com
Visit us on social media:
LinkedIn
Instagram
Facebook
YouTube
X
Other

This press release can be viewed online at: https://www.einpresswire.com/article/840750294

EIN Presswire's priority is source transparency. We do not allow opaque clients, and our editors try to be careful about weeding out false and misleading content. As a user, if you see something we have missed, please do bring it to our attention. Your help is welcome. EIN Presswire, Everyone's Internet News Presswire™, tries to define some of the boundaries that are reasonable in today's world. Please see our Editorial Guidelines for more information.
© 1995-2025 Newsmatics Inc. All Right Reserved.